



夏休みも中盤です！

猛暑が続くなか夏休みに突入し、涼しくなったり暑くなったりと体調管理に気をつけなければいけないのは大人だけでしょうか。小学生は涼しくてもプールに元気に通っているのでしょうかね。

前回のコラムにもありましたように、図書館では夏休みの宿題のお手伝いのできるツールがたくさんあります。栗盛記念図書館では『夏休みコーナー』を作りました。ぜひ立ち寄ってみてください。調べ学習についても、カウンターに一声かけていただければ図書館職員が調べ方をお手伝いします。

❖暑く熱い夏

私事になりますが、十数年間、高校生が企画・運営する事業に大人スタッフとして関わり、暑く熱い夏を過ごしてきましたが、数年前に事業が終了しました。

少し寂しい思いをしていましたが、今夏『被災地でつなぐ高校生の想い』という事業を自身で立ち上げ、ちょうど一週間前に高校生27名と大人スタッフ6名で実施しました。石巻市大川小学校跡地、気仙沼市の児童館、唐桑で、被災した状況を写真での説明とそれぞれのお話を聞く機会ができ、気仙沼向洋高校生との交流もありました。

東日本大震災から7年5カ月が経過し、私たちの記憶も薄れがちになりますが、大川小学校の遺族でもある佐藤敏郎氏は、「すべての命には意味がある、すべての子どもたちに知ってほしい」「救ってほしい命、救ってほしかった命、救いたかった命、救えなかった命」「(逃げていれば助かったであろう)山があっても、判断と行動と、力をあわせること」の大切さを語ってくださいました。

大川小学校は「このままだと壊されてなくなってしまう、残したい」という只野哲也さんという数少ない生存者の一人の少年の思いから、大人が動き、市が動き、5年をかけて震災遺構として整備されることになったそうです。

大川小学校は、「卒業生にとっては母校であり、懐かしいところ、子どもたちの笑顔があふれていた場所だったところ。それをどう見せて伝えていくのかは未来の人がどうすればいいのかを考えていけばいい」と佐藤氏は言います。「大川小は、(校歌の最後の歌詞だそうです)未来を拓く場所」この言葉を聴いて石巻を後にしました。

震災当時小学2～4年生で当時の記憶はほとんど残っていないとのことでしたが、参加した高校生にとってあの2日間は熱く刺激的な夏であってほしいと願っています。

❁ 平和を考える 8月

6日のヒロシマの日、9日のナガサキの日、15日の終戦記念日と続きます。

広島市平和記念式典では、子ども代表として2名の6年生が「平和の誓い」を述べています。

「平和とは、自然に笑顔になれること。

平和とは、人も自分も幸せであること。

平和とは、夢や希望をもてる未来があること。」

そして、

「73年前の事実を、被爆者の思いを、

私たちが学んで心に感じたことを、伝える伝承者になります。」と結んでいます。

震災でもそうですが、かつての子どもたちが語り部として活動しています。人の特性として、私たちは学ぶこと、伝えることができます。学ぶということはそれを活かすこと。難しい課題が子どもたちから大人に送られたと思うのは私だけでしょうか。学ぶ材料（蔵書）はたくさん図書館にあります。市立図書館にないものはほかの図書館から借りることもできます。

残暑はまだまだ厳しいようです。涼しい図書館で子どもたちからの課題を解決してみてはいかがでしょうか。（保）

❁ イベントのお知らせ

本日8月10日（金）夜6時30分から7時まで、新規企画「夜の怖～いおはなしとしょかん」を開催します。小学生とそのご家族を対象に、図書館職員が“怖い話”を読み聞かせします。夏休みの思い出づくりにいかがですか？

8月29日（水）午後1時から3時までは、毎月恒例の「図書館でホッとタイム」です。通算49回目となる今回は、大館市まちづくり課の出前講座を行います。テーマは「未来へ紡ぐ歴史まちづくり」。「大館市歴史的風致維持向上計画」の取り組みなどについてお話を伺います。

会場はいずれも栗盛記念図書館1階の多目的室です。参加は無料、事前申し込みも不要ですのでお気軽にご参加ください。お待ちしております。（栗盛：西）